

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

学力調査等の状況	
国語…書・読むの領域は、都や全国と比べてもあまり差はない。話すこと・聞くことの領域は都や全国と比べて正答率が低い。「自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫して話す」の無解答率が高い。	
数学…論理的に説明をする記述式の問題で都や全国と比べて無解答率が高い。基本的な項目である「数と式」についても正答率が低く、数学全体に対しての苦手意識がある。	
理科…評価の観点から「思考・判断・表現」、問題形式は「記述式」の問題が都や全国と比べて正答率が低い。数学と同様に論理的に記述する問題の無解答率が高い。全体を通して記述式問題の無解答率が高く、書くことに苦手意識がある生徒が多いことが分かる。	

見えてきた課題
授業をデザインする8つの取組のうち、「価値ある対話の共有」が本校の課題である。多角的に物事をとらえ価値ある対話をするためには、土台となる知識・技能を着実に習得した上で、思考力、判断力、表現力を育成する必要がある。「ICT機器の活用」「振り返りの設定」を各教科で取り入れ、知識・技能の習得を図っていく。「認め合い、学び合う集団の形成」をすすめ、対話しやすい学習環境を整えていく。

授業をデザインする8つの取組について	
ICT機器の活用	ICT機器やドリルソフトnavimaを個別学習に活用することで、基礎学力の定着を図る。
振り返りの設定	本時の授業で学んだことや課題を振り返ることで、知識や技能の定着を図る。
認め合い・学び合う集団の形成	教え合い学び合いを取り入れることで主体的に学習に取り組む態度を育成していく。

各教科における課題を改善するための指導の重点

	年度当初に設定した重点	第1学年	第2学年	第3学年
国語科	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT教材や資格資料を活用し、視覚的にわかりやすい導入を行う。</li> <li>対話的な活動を取り入れ、発表活動などを通して、表現力を高める活動を取り入れる。</li> <li>語彙力を養うため、定期的に漢字テストを行う。</li> </ul>	<p>群読や班活動を行うことで対話力、表現力の向上を図ることはできた。毎週の漢字テストや定期的な慣用句などのプリントを実施することで、語彙力を養うこともできた。しかし、まだまだ書くことが難しい生徒や語彙力が乏しく、表現が苦手とする生徒も多いため、引き続き対話的な活動や語彙力の向上に力をいれ指導していく。</p>	<p>発表や班活動を行うことで対話力、表現力の向上を図ることはできた。毎週の漢字テストや定期的な慣用句などのプリントを実施することで、語彙力を養うこともできた。しかし、まだまだ書くことが難しい生徒や語彙力が乏しく、表現が苦手とする生徒も多いため、引き続き対話的な活動や語彙力の向上に力をいれ指導していく。</p>	<p>スピーチの授業の際、調べ学習や発表で、ICTを活用することができた。また、グループでの発表を経て全体での発表をすることで自信を持って発表できる生徒が増えた。漢字のワークを使用して語彙力向上や正しい文字を書くことに取り組み、徐々に成果が上がっている。今後は、語彙力を向上させるためのノート指導に取り組みたい。</p>
社会科	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT教材や視覚資料を活用し、視覚的にわかりやすい導入を行う。</li> <li>学習形態を工夫し、対話的な活動を取り入れる。</li> <li>発表活動などを通して、表現力を高める活動を取り入れる。</li> <li>資料を厳選し、資料を読み取る力や活用する力の育成を図る。</li> </ul>	<p>生徒の興味関心を引く導入や資料活用の技能の向上を図ることはできた。一方で、対話的な活動を行うことで生徒の思考力、表現力を十分に高めることができた。今後も発表活動などを積極的に取り入れ、主体的に考え、表現できる機会を増やしていくことで、価値ある対話の共有に力を入れていく。</p>	<p>生徒の興味関心を引く導入や資料活用の技能の向上を図ることはできた。一方で、対話的な活動が不十分であったこともあり、生徒の思考力、表現力を十分に高めることができなかった。発表活動などを積極的に取り入れ、主体的に考え、表現できる機会を増やしていくことで、価値ある対話の共有に力を入れていく。</p>	<p>生徒の興味関心を引く導入や資料活用の技能の向上を図ることはできた。一方で、対話的な活動が不十分であったこともあり、生徒の思考力、表現力を十分に高めることができなかった。発表活動などを積極的に取り入れ、主体的に考え、表現できる機会を増やしていくことで、価値ある対話の共有に力を入れていく。</p>
数学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT教材や視覚資料を活用し、視覚的にわかりやすい導入を行う。</li> <li>統計や確率などの単元では、クロームブックのスプレッドシートを活用し、実験の集計を円滑に行う。</li> <li>習熟度別少人数授業(2、3年)を行い、生徒の発達段階に合わせて指導を行う。</li> <li>基礎、基本の計算力を身につけるために、問題演習を行う。</li> </ul>	<p>授業の導入で、シミュレーション動画を取り入れるなどして、どのように問題を考えていくのか、解いていくのかという「思考的ツールを活用」という部分を意識し授業を行っている。</p> <p>素数に対する理解や、記述問題に取り組む姿勢などが、都の平均を下回っているため、「問題を理解し、解決しようとする姿勢」を習熟度別少人数授業で、普段の授業以上に個に対して指導できるようにしていきたい。</p>	<p>ICT教材やクロームブックを活用した授業を行うことができた。授業の導入では、シミュレーションの動画等を取り入れ、視覚的にわかりやすくなるようにした。</p> <p>習熟度別少人数授業では、習熟度に合わせた教材を準備したが、習熟度の差が大きくなっているため、それぞれに合わせた指導に力を入れていく。</p> <p>スモールステップで、基礎基本の演習を丁寧に行うことができた。</p>	<p>習熟度別少人数授業では、習熟度に合わせた問題演習量や難易度で取り組むことができた。</p> <p>授業の導入にて、実験動画を見せ、予測をさせるなど、視覚的情報から興味をもたせることができた。</p> <p>授業の最初の時間に計算プリントなど、中学校の復習の計算を行い、基礎基本の定着をしていきたい。</p>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT教材や映像資料の積極的活用</li> <li>問題の反復練習、再テストの実施の基礎・基本の定着</li> <li>実験、観察の充実と、科学的思考力の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>映像資料、ICT教材を活用する授業を行う。</li> <li>授業の終わりに基本的な問題演習を行い、基礎・基本の定着につなげる。</li> <li>実験を行う際は、考察に時間をかけ、科学的思考力の育成を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子教科書や映像資料を活用し、主体的に取り組む態度の向上につなげる。</li> <li>ICT機器やICT教材を用いて、観察・実験の方法や結果、考察などを視覚、聴覚からわかるように用いている。</li> <li>ICT機器を用いて、実験結果や考えの共有を行った。</li> <li>内容のまとまりごとに問題演習を行い、学び合いを活用して基礎・基本の定着につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT教材や映像資料などを活用し、観察・実験の操作などもわかるように授業を行った。</li> <li>Navimnaの活用や小テストを実施し、単元や章の終わりに内容の復習を行い、基礎学力の定着を図った。</li> <li>観察・実験を行う際に、事象について考える時間を設け、科学的思考力の育成を図った。</li> </ul>
外国語科	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT教材を使用し、視覚的にわかりやすい導入を行う。</li> <li>クロームブックを使用した問題演習を行う。</li> <li>少人数制授業を活かし、個に応じたきめ細やかな指導を行う。</li> <li>ペア・グループワーク等で学び合い活動を活性化させ、対話的な学びをはかる。</li> <li>発表とやり取りの機会を可能な限り設ける。</li> <li>得点力をつけさせる問題演習を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用するワークシートは必ず黒板に拡大表示し、生徒と教員との対話を通してポイント整理や課題への取り組みを進める。WEBの活用は臨機応変に行う。</li> <li>生徒同士の学び合いを課題の中に予め組み込む。上記の進め方とともに、どの教員が授業をしても同水準の指導内容を維持することが、少人数制授業での最たる課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル教科書を使い、内蔵されている実写ムービーを見せ、導入を行った。</li> <li>少人数制授業をし、生徒一人ひとりに合った指導ができた。</li> <li>1minite chatをペアやグループで行い、既習事項を実際に使ってみるという経験を取り入れた。</li> <li>クロームブックを使用し、クイズ形式で既習事項の復習を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼンテーションソフトを用いて、新出語句の導入を行った。</li> <li>クロームブックを使用し、クイズ形式で既習事項の復習を行った。</li> <li>第1学年、第2学年では少人数授業を実施した。</li> <li>ペアやグループ、全体での英語を活用しながらのアクティビティを含め、話し合い活動を取り入れた。</li> </ul>

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	第1学年	第2学年	第3学年
音楽科	<ul style="list-style-type: none"> <li>発声練習を繰り返し行い、良い発声を身に付けさせるとともに、歌う楽しさを感じさせる。</li> <li>人前で発表することを通して、自分の思いを表現する音楽的な能力を身に付けさせる。</li> <li>パート練習等を通してリーダーを育成する。</li> <li>映像資料を積極的に活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌唱の授業のはじめにほぼ発声練習を行った。</li> <li>取り組んでいる合唱曲の歌詞について考え、班やクラス内で自分の思いを表現する活動を行った。</li> <li>合唱練習において、実行委員やパートリーダー中心の練習を行った。</li> <li>鑑賞の授業において、動画資料を活用した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌唱の授業のはじめにほぼ発声練習を行った。</li> <li>取り組んでいる合唱曲の歌詞について考え、班やクラス内で自分の思いを表現する活動を行った。</li> <li>合唱練習において、実行委員やパートリーダー中心の練習を行った。</li> <li>鑑賞の授業において、動画資料を活用した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌唱の授業のはじめにほぼ発声練習を行った。</li> <li>取り組んでいる合唱曲の歌詞について考え、班やクラス内で自分の思いを表現する活動を行った。</li> <li>合唱練習において、実行委員やパートリーダー中心の練習を行った。</li> <li>鑑賞の授業において、動画資料を活用した。</li> </ul>
美術科	<ul style="list-style-type: none"> <li>思考力をつけるために、導入ではワークシートを用いてアイデアを整理する時間を確保する。</li> <li>表現力をつけるために、1学年のうちに基礎的な技術指導(レタリング・スパックリング・トレース・遠近法など)を行う。2・3学年では判断力をつけるために、習得した技術から自ら選択し、活用して表現を行う作品制作を行う。</li> <li>単元ごとに発表(鑑賞)の時間を設け、考えたことを他者に伝える体験を多く設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○クロームブックを用いてアイデア出しをする時間を確保する。</li> <li>○レタリング、スパックリング、トレース等、表現の幅が広がる技術の指導を行う。</li> <li>○単元ごとに発表の時間を設けて考えたことを他者に伝える体験を設ける。考えが伝わることで達成感と自己肯定感を味わえるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○クロームブックを用いてアイデアを整理し、作品へ活かすための時間を確保する。</li> <li>○遠近法など表現の幅が広がる指導と、効率的にすすめる技術の指導を行う。</li> <li>○単元ごとに発表の時間を設けて自分の意図を伝えるとともに、他者の作品の良さにも触れ、作品をより良くしようとする姿勢を身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○クロームブックを活用し鑑賞の授業やアイデア出しの段階で調べ学習を行った。</li> <li>○授業の最後に本日の作業について振り返る時間を設け、次回の作業目標を明確にし製作のスケジュール確認をさせ計画性を身に付ける。</li> <li>○単元ごとに講習会を行い、他者の作品に触れる時間を設けて相手の作品の良さを見つける。</li> </ul>
保健体育科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○運動時間＝運動量の確保</li> <li>○能力別のグループ学習を活用し、主体的に学習に取り組める授業の展開</li> <li>○補助器具を活用し、運動の変化を気づかせて、技能向上の支援をする。</li> <li>○ICT機器を活用し、正しい運動の仕方や自分の動きを確認し、技能の習得につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カードによる振り返りを通して、自己の課題や成果について明確にし、次回の授業へのめあてにつなげる。</li> <li>・ICT機材を活用し、運動の行い方、技能の分析を視覚的な情報から行いやすくする授業展開を目指す。</li> <li>・生徒同士の教え合い活動をより一層取り入れ、知識や考え方を深めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○器械運動などクロームブックやiPadを使用し自らの動きを客観的に捉え、自分の技能向上に生かす。</li> <li>○基本的な技能や知識を身につけた上で、習熟度別に試合を行うなど主体的に学習を進められるような授業の展開</li> <li>○本時の目標や流れなどを視覚化し、説明の時間の短縮、運動時間の確保につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ICT機器を使用し、集団的競技の攻め方、守り方を理解させ、チームの作戦や課題解決への思考を高める。</li> <li>○基本技能を身につけ、ゲームにおける場面練習を取り入れ、状況に応じた判断や技能の選択につなげる。</li> </ul>
技術・家庭科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できあがった作品を見せることで、スムーズに作らせる。自分で考えさせるやり方も試す。</li> <li>・ICT機器等で実際の作業を見せる。</li> <li>・早くできあがった生徒とペアを組ませることで効率よく授業を進める。”</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT教材およびクロームブックを活用し、調べ学習や学習の共有などを取り入れ、双方向から深い学びを目指す。</li> <li>・単元ごとに振り返りのレポート行い、基礎的な知識を身につける。</li> <li>・実習の時間では話し合い活動を行い、問題解決につながる授業を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT教材およびクロームブックを活用し、学習の共有などを取り入れ、双方向から深い学びを目指す。</li> <li>・単元ごとに振り返りのレポート行い、基礎的な知識を身につける。</li> <li>・実習の時間では話し合い活動を行い、問題解決につながる授業を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クロームブックを活用したデジタル作品をクラスで共有し、双方向から深い学びを目指す。</li> <li>・単元ごとに振り返りのレポート行い、基礎的な知識を身につける。</li> </ul>
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体験的な活動を重視し、その中で問題解決的な学習が経験できるように意図する。</li> <li>○パソコンを道具として使いこなし、情報収集をできるようにする。</li> <li>○様々な人との直接的なかわりを大切にする。</li> <li>○関係施設や民間企業、保護者など、地域の教育力を最大限活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クロームブックを効果的に活用し、情報収集することで校外学習における班行動の計画を立てることができた。職場訪問等を実施することが難しい中で、職業調べにおいて保護者と連携し、学校において働くことについて講話を実施する活動を取り入れていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クロームブックを効果的に活用し、情報収集し、集めた内容を魅力的に相手に伝える活動に取り組むことができた。一方で、進路に関する理解や意欲が十分に高まっていない生徒が多くいることが課題であるため、社会の教育力を活用したキャリア教育に今後力を入れていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>修学旅行の事前学習では、クロームブックを活用し、情報収集をした。その後、調べたものをまとめ、発表し、プレゼンテーション力の向上を図った。</li> <li>これから先、三者面談や進路学習を通して、上級学校への進学だけではなく、自己の将来に目を向けさせながら、キャリア教育の視点をもって、指導にあたる。</li> </ul>
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思いやりの心を育成し、人権尊重の精神を尊重する態度を育成する。</li> <li>・学校のきまりや、生徒の身近な問題を通し、規範意識を養い、道徳的心情と判断力を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読み物資料を元に、多角的・多面的な視点から物事について考えさせることができた。また、道徳の授業に限らず、学年で起きている出来事を題材にしたものを取り入れることで、自分事として捉えようとする気持ちを育むことができた。2学期からは学年教員全員による道徳の授業を展開していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な題材を取り入れることで、主体的に取り組み、基本的な態度や規範意識は形成できている。一方で、自分が直面したことのない新たな課題について判断する力は十分に身につけていないため、ICTや思考ツールを活用する中で、実際の課題について判断できる能力の向上を目指していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任のみならず、学年全体で道徳を指導し、様々な教師の話を生徒に共有することができた。また、授業の終末はワークシート等を用いて振り返りを行い、自分ごととして考えを深めることができた。今後も様々な教材を活用していくことで、物事を多角的に見られるよう指導していく。</li> </ul>

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	第1学年	第2学年	第3学年
特別活動	愛情と信頼を軸として、心の交流のある望ましい集団生活の育成に努める。	<p>全校行事や学年行事、更には委員会等の組織決めにおいて、生徒の柱となる学年目標と照らし合わせながら取り組ませ、少しずつ信頼関係を築いてきた。</p> <p>行事の振り返りを「立ち止まり」と位置づけ、学年目標の達成を軸に、学年集団の良さや課題について今後も指導を継続していく。</p>	<p>行事などを通して、集団生活における、思いやりや強調する精神を身に着け、伸長させることができた。望ましい集団生活をより達成していくために、hyperQUの結果を生かし、個に応じた指導を目指して取り組む。</p>	<p>行事などを通して、集団で協力することや互いに支え合うこと、一人一人が責任と自覚をもって取り組むことなどの意識が高まった。今後、自己の進路の決定に向けて、仲間と協力しながら取り組めるよう支援する。</p>

各校の授業改善に向けて、授業をデザインする8つの取組の中から町田市学力向上推進プラン(第4次)で焦点化している【見通しをもたせる導入・価値ある対話の共有・振り返りの設定・ICTの活用】から特に重点的に取り組む視点を3つ設定し、学校全体で取り組む内容を記載する。

※ICT機器の活用の活用に関しては、必ず取り組む。

【参考】町田市学力向上推進プラン(第4次)、町田市スタンダード授

締め切り

10月14日(金)

データ先

¥¥mei.machida-tky.ed.jp¥fileservers¥115\_忠生中学校¥管理共有¥管理\_教員¥002分掌 ¥教務部¥授業改善推進プラン¥2022